

令和５年度病害虫発生予察予報第９号（令和５年１２月）

令和５年１２月４日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(西) <u>多(西)</u> 、平年並(中西)、少(中央) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u> <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(西)</u> <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西)、少(西) やや少(中央、中西)、少(西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	少(県下全域) やや少(県下全域) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央) やや少(東)、少(中央、西) <u>やや多(東)</u> 、少(中央、西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	平年並(中央)、やや少(東)、少(中西) 平年並(東)、少(中央、中西) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央)、少(中西) <u>やや多(県下全域)</u> やや少(県下全域)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> やや少(中央) やや少(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台11月30日発表)

12月2日から1月1日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

寒気の影響を受けにくいとため、向こう1か月の気温は高いでしょう。低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう1か月気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、平年並か少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率50%です。2週目は平年並、高い確率ともに40%です。3～4週目は平年並、高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)	
1 か月	四国地方	気温	10	40		50	
		降水量	20	30		50	
		日照時間	40		40		20

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	40		50
2 週目		20	40		40
3～4 週目		20	40		40

<予報の対象期間>

1 か月：12月2日(土)～1月1日(月)

1 週目：12月2日(土)～12月8日(金)

2 週目：12月9日(土)～12月15日(金)

3～4 週目：12月16日(土)～12月29日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(中西部)、平年並(西部)

根 拠

(1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、中西部では平年並、西部でやや少なかった。発病程度は中央部、西部で平年よりも高く、中西部で平年並であった。

(2) 本病は20℃前後、多湿条件下で発病が多くなる。12月の気温は平年よりも高く、降水量は平年よりも多いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発生が増加

すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温によるハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年より多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展は緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤の防除効果は、上位葉への進展状況で判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部では平年よりもやや多く、中央部と中西部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部と中西部で平年並であった。
- (2) 11月上旬の気温が高めで推移したため、野外からの媒介虫の飛び込みが例年よりも長く続いたと予想されることから、12月に入っても新たな発病株の発生が続くと考えられる。一方で、気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの野外から施設内への飛び込みがなくなることから、その後の発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却するなどの処分を行う。

4) 退緑黄化病

予 想 発生量：多(中央部、中西部)、やや多(西部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、中西部で平年よりも多く、西部で平年並であった。発生程度は中央部、中西部で平年よりも高く、西部で平年並であった。
- (2) 11月上旬の気温が高めで推移したため、野外からの媒介虫の飛び込みが例年よりも長く続いたと予想されることから、12月に入っても新たな発病株の発生が続くと考えられる。一方で、気温の低下にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外から施設内への飛び込みがなくなることから、その後の発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部)、やや少(中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度は中西部で平年並、中央部で平年よりもやや低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部、中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、いずれも発生面積、発生程度ともに平年並であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。両地域とも発生面積は平年よりも少なく、発病程度も平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も発生面積は平年より

少なく、発病程度は平年より低かった。

- (2) 12月の気温は平年よりも高く、降水量は平年よりも多いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)すすかび病

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県西部で発生が見られ、発生面積は平年並、発病程度は平年より高かった。
- (2) 12月の気温は平年よりも高く、降水量は平年よりも多いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は東部で平年並、中央部では平年より少なかった。発生程度は両地域とも平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5)ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 11月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
- (2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となり、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6)タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（東部）

根 抛

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は西部で平年より高く、東部で平年並、中央部でやや低かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部)、やや少(東部)、少(中西部)

根 抛

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、東部で平年よりもやや少なく、中西部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年より低かった。
- (2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：平年並(東部)、少(中央部、中西部)

根 抛

- (1) 11月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年並、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 低温期は加温機が稼働する時間が長くなるため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部)

根 抛

- (1) 11月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部で少なかった。発病程度は、中央部で平年並、中西部で平年よりも低かった。
- (2) 低温期は加温機が稼働する時間が長くなるため、発生の増加は少なく、現在の発

生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(東部)、平年並(中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部ではやや多かった。発生程度は、両地域とも平年より高かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場で天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 巡回調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より多かった。発生程度は、県東部と中央部で平年よりも高く、中西部で平年並であった。
- (2) 気温の低下とともに増殖が緩慢となり、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 11月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年並であった。発生程度は、県東部と中西部で平年よりも高く、中央部では平年並であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、多くのほ場で天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2) 12月の気温は平年よりも高く、降水量は平年よりも多いと予想されていること、また肥料切れや着果負担等により草勢が低下すると発病が多くなることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2)すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 12月の気温は平年よりも高く、降水量は平年よりも多いと予想されていることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気や加温により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)黄化葉巻病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発生程度は平年よりやや低かった。
- (2) 11月上旬の気温が高めで推移したため、野外からの媒介虫の飛び込みが例年よりも長く続いたと予想されることから、12月に入っても新たな発病株の発生が続くと考えられる。一方で、気温の低下にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外から施設内への飛び込みがなくなることから、その後の発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却するなどして処分する。

4)タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 11月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりも高かった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入はなくなることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)